

3. 進. 国

一、次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(七〇点)

宇宙を飛びつづけていた小さな宇宙船は、隕石いんせきにぶつかっただらしく、はげしいシヨウゲキaを受けた。

「I、これはとんでもないことになったらしいな」

エヌ氏はひとり操縦席の計器盤を眺めながらつぶやいた。彼はカメラマン。ほうぼうの惑星の写真をとって回るのが仕事だった。

① 彼の職業のことなどはどうでもいい。問題は宇宙船の発電装置と通信装置とに故障がおこったということだ。しばらくは予備の電力が使えるとはいうものの、このままだとまもなく航行不能になる。

エヌ氏は非常の際にはどうすべきかを記したパンフレットを取り出した。そこにはこう書いてあった。へあわてることはありません。まず、テンメツ信号用のブイbを空間に浮かせて、目印として下さい。それから、最も近い星に着陸し、そこで待っていて下さい。宇宙救助隊は、あなたがあらかじめ提出した旅行予定表の帰還日をすぎても戻らない場合、その道すじをたどってさがしに出かけます。あなたは必ず発見され、救助されるのです」

要するに、時間がかかるがいずれは助かるということなのだ。この指示に従うほかに方法はない。

エヌ氏は宇宙船をなんとか操縦し、近くの惑星に着陸させた。小さな荒れはてた岩ばかりの星で、動植物らしきものは見当たらない。予備電力も、着陸してまもなくつきってしまった。しかし、彼は一応ほったし②。

宇宙食はたくさん持ってきた。それを食べながら救助を待てばいいのだ。彼はロケット燃料を少し出し、そ

3. 進. 国

れでコーヒーをわかして飲んだ。

気分が落ち着いてきて、エヌ氏はこれからなにをしたものかと考え、することがなんにもないのに気づいた。本でも持ってくればよかったと後悔したが、いまさらどうしようもない。彼は宇宙船の中で体操をはじめ、疲れるまでつづけ、そして眠った。

(i)、この生活をつづけた。(ii)、食事と体操と睡眠のくりかえしなのだ。伴奏もなくひとりで行う体操ほど、つまらないものはない。ばかばかしくなっていてやめてしまった。

といって、なにもしないのも退屈だ。(iii)、彼は宇宙船内部の壁に落書きをはじめた。しかし、これもそう長くはつづかない。自分で書いて自分で眺める落書きは、少しも面白くないのだ。(iv) 壁も一杯になったし、エヌ氏はそれをやめてしまった。

そのつぎに、エヌ氏は知恵をしぼり、手のこんだこと^Aをやった。ロケット燃料からアルコールを抽出し、それで酒を作って飲んだのだ。飲みながら歌をうたった。思い出せる限りの歌をうたった。しかし、ひとりではいっこうに楽しくならず、ひと通り歌ったら終りだった。

そのほか、考えつくままに工夫をこらしてみたが、いずれもそうはつづかない。一カ月ほどたつと、なにをやったものか、もうぜんぜん思いつけなくなってしまった。完全な退屈がはじまったのだ。救助隊がやって来てくれるまでは、どう早く計算しても、あと五カ月はかかる。そのあいだ、なにをやってすごしたらいいのだ。

3. 進. 国

③ 彼は恐怖を感じた。へたをすると、退屈さのあまり頭がおかしくなるかもしれない。

エヌ氏は宇宙船から出て、散歩をしてみようと思った。これは前にも考えたことなのだが、あまりにも単調な光景に、その気になれなかったのだ。岩ばかりの星で、生物がなにひとつ存在しない星だ。見物したところで、珍しいもののあるわけがない。

しかし、じっと退屈にとりまかれてすわっているよりはましだ。エヌ氏は宇宙服を着てそとへ出た。

しばらく歩いてみたものの、予想どおりなんの変化もない。引きかえそうかと思った時、岩山のかなたに異様なものを発見した。

形はユリの花を伏せたようで、高さは三メートルほど。あざやかな黄色をしていた。

「なんなのだろう、あれは……」

エヌ氏は緊張した声をあげた。こんな荒涼とした星の上に、あんなものがあるとは。見つめているうちにぶきみになり、彼は宇宙船に逃げ帰った。

そして、大急ぎで武器の手入れをし、起こかもしれない異変にそなえることにした。もはや、退屈どころのさわぎではない。あれは、いったいなんなのだろうか。彼はまんじりともせず考えつづけた。だが、もちろんわかるわけがない。

考えているだけでは解決しない。エヌ氏はボウエンレンズをつけたカメラを用意し、あまり近寄らずに撮影して帰ってきた。

3. 進. 国

現像して眺めると、いくつかのことがわかってきた。どうやら人工的な建造物らしい。外側に模様らしきものが彫刻されてあるので、人工的と推察できたのだ。それは象形文字のようでもあり、なにかの記号のようでもあり、また意味のない模様なのかもしれない。要するに、それ以上の正体は不明だったのだ。

エヌ氏は気になってならず、毎日のように眺めに出かけた。そして、少しずつそばまで近づくのだった。ついには、おそろおそろ手をのばして、さわってみた。だが、正体を知る手がかりは得られなかった。

高さは三メートルほど、黄色をした妙な形の建造物で、意味不明の彫刻がある。わかったことは、依然としてそれだけだった。

エヌ氏はひとつの仮定を想像した。これはどこかの宇宙人が作ったものではないかと。しかし、どんな宇宙人がどんな目的で作ったのかとなると、推理はたちまちゆきづまってしまう。

内部を調べればわかるかもしれない。だが、軽々しく実行する気にはなれなかった。なかに金属製の怪獣でもひそんでいて、飛び出してきたら大変なことになる。求めて危険をおかすことはない。

エヌ氏は毎日のように、宇宙船からこの妙な物体への散歩をくりかえした。まわりをまわりながら、内部になにかがあるかを考えるのだ。だが、いっこうにわからない。

そつとたたいてみた。べつに反応はない。日がたつにつれて、たたくのを強くしていった。やはり反応はない。

なぞを知りたいという好奇心は高まり、そのうちには、押えきれないほどになった。

3. 進. 国

エヌ氏は穴をあけてみる決心をした。だが、材質も不明で、どうやれば穴をあけられるかわからなかった。ドリルは歯がたたなかった。薬品をかけてもだめだった。しかし、ロケット燃料の炎をフンシヤしたら、焼けこげて小さな穴があいた。

なかをのぞくと、一辺が二十センチほどの四角な箱がつみ重ねてある。それだけだった。あれはなんなのだろう、彼は壁の穴を大きくし、その一つを手にとり、宇宙船へと持ち帰った。

このなかに入っているのはなんだろう。表面にはこれまた、意味のわからない記号だか模様だかが記されている。これが読めたらなあ、と彼はいらいらした。だが、いかに頭をひねっても、解読のできるわけがない。

何日もためらったあげく、その箱をあけてみようかと決心した。決心してからまた何日もかかって、苦心してそれに成功した。

④うす緑色をしたゼリー状のものが入っていた。エヌ氏は鼻を近づけてみた。はじめてかぐにおいて、とくにいいにおいでも、悪いにおいでもなかった。有毒な物質なのかどうかの見当もつかない。

彼はまた、ためらったすえ、指先でさわってみた。そして、その指先を眺めて何日かをすごした。しかし、痛みもかゆみも起ってこなかった。さわるだけなら無害なようだ。

どんな用途を持つものだろう。それについて思いをめぐらしながら、エヌ氏は時のたつのを忘れた。もしかしたら、宇宙人がチョゾウ^gしておいた非常食のたぐいではないだろうか。

3. 進. 国

彼はこの想像にとりつかれた。だが、すぐに口に入れるような軽々しいことはしなかった。たとえ食品だったとしても、体質がちがえば、人間にとって有毒ということもありうる。分析してみればいいのだが、エヌ氏はカメラマンで、あまりその知識はなかったし、宇宙船には試薬の用意もなかった。

迷ったあげく、がまんがしきれなくなり、舌の先でなめてみた。すぐに口をすすいだが、いい味であることがわかった。平凡な味の宇宙食を食べつづけているせいもあったろうが、とにかく悪い味ではなかった。

二日ほどたっても、舌の先がしびれてくるということもなかった。エヌ氏はふたたびなめてみた。くりかえしているうちに、それでは満足できなくなってきた。そして、ある日。ほんの少しだけ飲みこんでみた。

その瞬間、エヌ氏は後悔した。こんな危険なことはしないほうがよかったのではと。しかし、もはや体内に入ってしまったのだ。これを食べたことで、どんな変化がおこるだろう……。

彼は不安を感じながら、^⑤ | それのあらわれるのを待った……。

そんなある日。空に宇宙船があらわれた。救助隊がやって来てくれたのだ。ロケットは着陸し、なかから出てきた隊員はエヌ氏に言った。

「助けに来たぞ。さぞ待ちくたびれたろう。しかし、もう大丈夫だ。さあ、出発しよう」

「ありがとう。だが、なによりもまず、健康シンダンをやってもらいたい。この変なものを食べてしまったのだ。害のあるものだったら、早く手当をしなければならぬ」

エヌ氏は問題の品を示した。隊員はそれを見て言った。

3. 進. 国

「これなら心配することはない。べつに人体に影響はない」

「そう言われただけでは、気分がさっぱりしない。いったい、この正体を知っているのか」

「ああ」

「ぜひ教えてほしい。なんなのだ。」

「教えてもいいが、絶対に秘密を守ってもらわなければならない。それを誓うか」

「もちろん誓う。話してくれ」

「じつは、われわれ救助隊が、ほうぼうの無人の星に置いておいたものなのだ。遭難者のために……」

「そうだったのか。しかし、それなら説明書ぐらいつけておくべきじゃないか。おかげで、さんざん悩まされてしまった」

「それでは意味がない。これは不時着した遭難者が、荒涼とした星でさびしさや極度の退屈によって II のを防ぐためのものなのだ……」

(星 新一『遭難』より)

3. 進. 国

問1 ……線部 a h のカタカナを漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

問2 I に入る適当な語句を次から選び、記号で答えなさい。

ア どれどれ イ ぼちぼち ウ やれやれ エ しめしめ

問3 ———線部①「彼の職業のことなどはどうでもいい」とあるが、なぜか。本文中の語句を使って簡潔に答えなさい。

問4 ———線部②「彼は一応ほっとした」とあるが、なぜほっとしたのか。本文中の語句を使って簡潔に答えなさい。

問5 (i) (iv) に入る語句を次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア もちろん イ やがて ウ しばらくは エ だが オ つぎに

問6 ———線部 A、B の語句の意味として適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A 手のこんだ

ア 複雑な様子 イ 簡単な様子 ウ 便利な様子 エ 精巧な様子

B まんじりともせず

ア 一睡もせず イ 想像もせず ウ 我慢もせず エ 行動もせず

3. 進. 国

問7 — 線部③「彼は恐怖を感じた」とあるが、何に対して恐怖を感じたのか。本文中より五字で抜き出
しなさい。

問8 ~~~~~ 線部α、βの語句の対義語を漢字で答えなさい。

問9 — 線部④「うす緑色をしたゼリー状のもの」を確かめるためにエヌ氏が使った「五感」を、順番に
四つ、解答欄に合うように答えなさい。

問10 — 線部⑤「それ」とは何か。本文中の語句を使って三十字以内で答えなさい。

問11 Ⅱ について、次の各問いに答えなさい。

(1) Ⅱ に入る表現を自分で考えて十字以内で答えなさい。

(2) (1)を防ぐために救助隊は、遭難者の何を利用しましたか。本文中より五字以内で抜き出しな
さい。

3. 進. 国

二、次の各問いに答えなさい。(三〇点)

問一 次の各文の――線部を、正しい敬語の動詞一語で書きかえなさい。

- ① 先生に古典を教^えても^らい^まし^た。
- ② あ^なた^の言^うと^おり^です。
- ③ 明日はご自^宅に^いま^すか。
- ④ 冷^めな^いう^ちに^食べ^てく^ださ^い。
- ⑤ 先^生の思^い出^のア^ルバ^ムを^見る。

問二 次の各文には、形容詞もしくは形容動詞が一つずつ入っています。形容詞なら「ア」、形容動詞なら「イ」と答え、それぞれの活用形も答えなさい。

- ① 誰^に対^して^も親^切な^人だ。
- ② この道^なら^安全^だと^彼は^教え^てく^れた。
- ③ 楽^しい^ひと^とき^を過^ごす。
- ④ 夕^食を[、]お^いし^くい^ただ^きま^した。
- ⑤ 波^がお^だや^かな^らば^泳ぎ^に行^く。

3. 進. 国

問3 次の①～⑤について、に当てはまる漢字を書き、四字熟語を完成させなさい。

① 一 一会 (一生に一度だけ出会うこと。)

② 夏炉冬 (無駄なもののため。)

③ 千載一 (千年に一度しかないほどのまたとない好機。)

④ 山 水明 (自然の風景のすぐれていること。)

⑤ 付和 同 (自分の考えを持たず、他説にすぐ賛成すること。)

問題は以上で終了です。

受験番号		氏名		採点	
------	--	----	--	----	--

一	問 1	a	b	c	d
		e	f	g	h
	問 2				
	問 3				
	問 4				
	問 5	i	ii	iii	iv
	問 6	A			
		B			
	問 7	-----			
	問 8	α			
		β			
問 9	覚 ↓ 覚 ↓ 覚 ↓			覚	*完全解答
問 10	-----				
問 11	(1)				
	(2)				

二	問 1	①	②	③	④	(7)
		⑤				
	問 2	①	形	②	形	③
	⑤	形	*各完全解答			
問 3	①	②	③	④		
	⑤					

受験番号		氏名		採点	
------	--	----	--	----	--

問 1	a	衝 撃	b	点 滅	c	こうりょう	d	望 遠	
	e	い ぜん	f	噴 射	g	貯 蔵	h	診 断	
問 2	ウ								
問 3	職業のことを説明している時間的余裕はなく、宇宙船の発電装置と通信装置とに故障 がおり、このままでは航行不能になるということの方が問題だから。								
問 4	無事、着陸し、たくさんもってきた宇宙食を食べながら救助を待っていれば、時間は かかるがいずれは助かるということだから。								
問 5	i	ウ	ii	エ	iii	オ	iv	イ	
問 6	A	エ							
	B	ア							
問 7	完 全 な 退 屈								
問 8	α	自 然	* 「天然」でも可						
	β	総 合							
問 9	視 覚 ↓ 嗅 (きゆう) 覚 ↓ 触 覚 ↓ 味 覚						* 完全解答		
問 10	う す 緑 色 を し た ゼ り ー 状 の も の を 食 べ た こ と								
	で お こ る 体 の 変 化 。								
問 11	(1)	気 が 変 に な る						* 頭が変になる・頭がおかしくなるでも可	
	(2)	好 奇 心							

問 1	①	い だ だ き	②	お っ し や る	③	い ら っ し や い	④	召 し 上 が っ (て)				
	⑤	拝見(はいけん)する										
問 2	①	イ	連 体 形	②	イ	終 止 形	③	ア	連 体 形	④	ア	連 用 形
	⑤	イ	仮 定 形	* 各完全解答								
問 3	①	期		②	扇		③	遇		④	紫	
	⑤	雷										